都留市ふるさとづくり講座開催

県民生活センターの地域推進委員　代表清水正賢氏（くらしの向上や豊かで住みよい地域づくりを進めるため、その中核的な役割を果たすよう、県民生活協会より委嘱された人たち。二十三名）と、二十一世紀クラブ　代表山本幸雄氏（豊かで住みよい〝ふるさと都留市〟の建設と、生涯学習の推進に寄与するため、学習し、提言し、実践する集団。十五名）は、「今世紀中に、家中川を〝さかな〟が泳げるようにしよう。」と、平成元年を機に、ふるさとづくり市民運動の展開に取り組むことになりました。

スローガンにあるとおり、「今世紀中」のイキの長い運動であり、まず、その第一歩として次のとおり講演会を開催いたします。

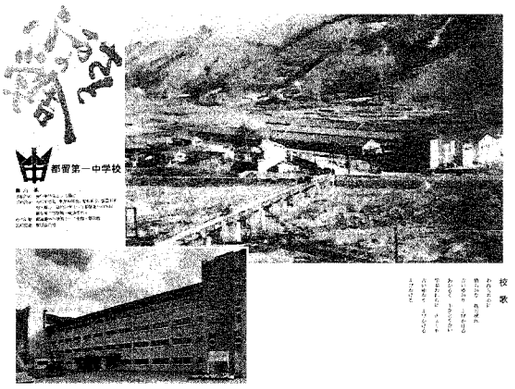
「ふるさとづくり」「美しいまちづくり」に関心をもつ市民の皆さんの参加をお願いします。

日時　2月10日（金）
　　午後1時30分～
場所　都留市文化会館3階第一研修室
主催　都留市地域推進委員
後援　都留市
演題　「家中川の生いたちとその役目」
講師　都留市文化財審議委員長　窪田　薫先生

※この学習会を起点として、〝まちづくり運動〟の基本に係る研究会の開催、家中川の実地踏査、水質検査、市民へのアンケート調査などと運動が発展されることになっています。

今月のカレンダー

「都留第一中学校」



城下町として由緒ある歴史と伝統を有する学園都市の中心に位置する都留一中は、谷村中として開校以来四十一年、建学の精神である勉学、勤労、規律の校訓をふまえ、ふるさとのめぐまれた自然や文化と調和しながら、香り高い知性と情操、強い意志と体力を培うとともに、自主的で創造力に富んだ個性豊かな生徒の育成に遭進してきた。本校に学ぶ五六四名の生徒たちも、この伝統と校風を糧に、二十一世紀の創造をめざして、日々の教育実践にさわやかに取り組んでいる。

生涯学習が提唱されている今日、本校が真に地域に根ざし、開かれた学校として、学習体系の中心となって、格調高く教育活動を推進していかなければならないことを痛感する。

都留第一中学校長　田中芳雄

ふるさとのまつり〈二月〉

○3日　節分
　各地および諸寺
○15日　初午
　各地、特に西涼寺の儀秀稲荷は大規模である。
○24日　らおうさん（マキ神）
　沖・佐藤家八軒の持ち回りによる。
○26日　六地蔵縁日
　用津院　延宝九年（一六〇七）郡内の飢餓の救済を越訴（おっそ）という手段で江戸町奉行に訴え出たが、捕えられ、二十五日に金井川原で処刑された七名の百姓総代のうち、奥脇太郎佐衛門の子孫が集まり供養を行う。

子供会シリーズ（18）

九歳親別れ

幼児期（小学校に入る前）に、親の言う事をよくきいていた子が、児童期（小学生の時）になると、親に反抗するようになります。「ああ言えば、こう言う。」と言うように口答えをするのです。特に九歳位になると、口答えだけでなく揚げ足をとったり、ぶりぶり怒ったりするのです。

日本では口答えをする子は、悪い子だ、という考え方があります。この考え方は子どもの発達という心理的な面が軽視されているように思えます。子どもは早ければ八歳位から、遅くても十歳位で子ども同士で自分たちだけの世界をつくるのです。子どもだけの世界をつくれる、ということは子どもの発達にとって大切なことです。家で親に言われたとおり行動するより、友だちの中で生きられる、仲間に認められる事の方が大切だという事がわかって来る時だからです。

幼児期は、親に否定されたくなくて、親の言う事をよくききます。児童期になると、子どもは仲間を大切にするようになります。子どもが仲間を大切にするのは、同士の世界の中で生きているということです。子どもの社会で情報を得ることが出来て、物事の因果関係がわかるようになります。又、大人の行動の矛盾に気が付き、大人のずるさも見抜くことができるようになります。そうなると、親を批判的に見るようになり、親に反抗するようになります。

子どもが親に反抗するようになったら、困ったものだと思わないで、いよいよ始まったなというように考えることが大切です。反抗したら叱ったり、怒ったりしないで、静かになった時に一呼吸おいて、理由をゆっくり聞くようにしましょう。案外子どもにも、一理あるものです。

反抗はしても帰って来るのは、自分の家です。暖かい自分の家が自分の基地である事を、決して忘れません。そういう子どもの反抗を親は見守ることが望まれます。

反抗がなくて、申し分のない「良い子」の方が問題です。

教育相談室
43―1111
内線　214